

おしるい

本書はJAFSAブックレットシリーズの一冊です。留学生のためのカウンセリングの問題を中心に解説したいと思います。私はこれまで、留学生の専任カウンセラーとして、七年勤務してきました。外国人相談の時期を入れるとほぼ十年になります。大学などの留学生の担当者や留学生に関心のある方々にカウンセリングの基礎的な知識や意義・内容・実際を知っていただきたいと思い、本書を書くことにしました。いわば入門編とお考えいただければと思います。

留学生担当者や日本語教師の方々にカウンセリングとはどういうものかを知っていただき、カウンセラーとの連携の関係をつくっていただきたい、これが本書の第一の目的です。これまで「留学生のカウンセリング」というタイトルの本は見あたりませんでした。大学も学校教育法に定めてある「学校」です。大学における学校カウンセリングの場面で、留学生の援助をどう考えるべきかという問題がますます大事になってきています。学校の、特に大学のカウンセリングを行っている方々が留学生を対象にしたカウンセリングをどう進めていったらよいかを明らかにすること、それが本書の第二の目的です。

最近、カウンセリングの世界では、新しい国際的な動きとして、異質な文化を認め合い、互いの立場を尊重する「多文化カウンセリング」の理論と実践が提案されています（*1）。

*1 Sue, Ivey, & Pedersen *A theory of Multicultural Counseling and Therapy*

二つのような新しい考え方を参考にしながら異文化摩擦や偏見や差別を超え、互いを尊重し合える社会をつくっていくために、カウンセリング心理学がどのような役割を果たせるのか。本来、この問題はみんなで知恵を出し合って考えるべき問題ですが、私なりの問題提起をさせていただき、ともに考えたい、これが本書の第三の目的です。

以上の三つの目的は、そのどれをとっても大事な問題であり、たいへん難しい問題でもあります。私の非力や勉強不足をかえりみずあえて本書を書くのは、日本ではまだまだ上述した問題意識を明らかにするための備えが不足していると考えるからです。読者のみなさんが、①カウンセリングについての基礎的な理解をし、②留学生カウンセリングのあり方についてより積極的な提案を引き出すことができ、さらに③日本文化のあり方をめぐって、日本社会の異文化への対応（それはアイヌ人、在日韓国人を含みます）について考える際の知的刺激になれば幸いです。

【本書の構成】

本書は、私が携わった留学生担当者や日本語教師、そして地域のボランティアのみなさん方を対象にした講習会、研修会、勉強会などで用いてきた心理教育のWAKSASモデルをもとに構成されています。WAKSASモデルとは、W (warm-up: 心の準備)、A (awareness: 気づき)、K (knowledge: 知識)、S (skill: 技法) を心理教育プログラムの要素としてモデル化を試みたものです。

本書では直接、親和性や学習動機を高めるための「W・ウォーム・アップ」を行うことは残念ながらできませんが、その分できるだけ筆者の気持ち伝えられるように、個人的体験や感想なども書かせていただきました。「自分にもそういうことがあったなあ」などと読者の方と経験を共有できればと思います。

第一章では、留学生担当者の方に、「留学生カウンセリングとは何か」を、「留学生とはどういう心理的存在なのか」、「専門的に援助するとはどういうことなのか」といったことに重点をおきながら、自分なりの「A・気づき」が得られるように記述しました。実際の心理教育ではさまざまなエクササイズ（体験学習）を行いながら参加者相互で気づきを深めていくのですが、ここは、読者のみなさんの想像力に頼るしか方法がありません。留学生担当者の方は業務を通して日々さまざまな気づきを得ていらっしゃることでしょう。この章が、そういうみなさんの日常の体験を振り返る機会になることを期待します。

第二章では、留学生担当者として知っておくべきカウンセリングの基礎と理論についての「K:知識」を記しました。いろいろな文化的背景を持ち、しかも青年期という発達過程にある留学生に接している担当者の方々は、どこまでが事務担当者としての対応で、どこからが心理や医療の専門家に相談すべき問題なのか迷われることも多いでしょう。実際に、その基準を明確にすることは容易ではなく、その複雑な業務に取り組むことが留学生担当者としての専門性なのかもしれないと思われれます。ただカウンセリングの基礎や理論を知ることが、「この点は専門家に任せよう」と判断する基礎になるのではないかと考えています。カウンセリングの代表的な理論や考え方に関する知識を共有することが、留学生担当者とカウンセラーとの連携の第一歩となることでしょう。

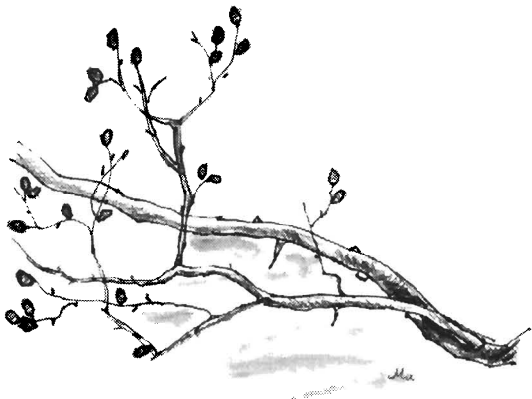
第三章では、「S:技法」として、留学生担当者の面接場面に活かせるカウンセリングの技法について具体的に述べています。これは、基礎的な技法であり、実際の場面では、さまざまな状況判断をし臨機応変に対応することが望まれます。カウンセリングの専門家だけでなく、非専門家にとっても身につけておくべき対人関係の技術です。

第四章では、留学生担当者が発達援助者としてもう一步進んだ「A:気づき」が得られるように記述しました。また、今後、留学生担当者として求められる姿勢・役割についても解説します。

最後に、具体的な対応「S:技法」の参考になればとよく聞かれる質問とその答えを

「Q」&「A」の形で紹介してあります。

以上のように、本書の各章はWAKSASという順番で構成されています。「気づき」や「知識」や「技法」といった総合的なアプローチから記述することにより、留学生担当者的方々に、カウンセリングとはどのようなものか、留学生にとつてのカウンセリングの意義、そして実際に役立つカウンセリングの技法などを学んでいただければと願うものです。



第一章 カウンセリングの意義 11

——留学生の心理とカウンセリングの意義についての気づき——

相談とカウンセリング	12
留学生カウンセリング	14
留学生の心理の理解	18
留学生をみる視点	24
留学生カウンセリングの三つの留意点	26

第二章 カウンセリングの基礎と理論 29

——留学生担当者に求められるカウンセリングの基礎知識——

カウンセリングとは	30
カウンセリングの理論	32

第三章 カウンセリングの技法 51

——留学生担当者に活かせるカウンセリングの基礎的技法——

学生とよく話せる人間関係（信頼関係）をつくる	52
留学生の抱えている問題を明らかにする	59
本人が解決できるよう援助する	66

第四章 カウンセリングの実際 71

——発達援助者としての留学生担当者の気づき——

カウンセリング・相談活動の重要性	72
留学生の発達援助のアプローチ	80
留学生の発達援助の五原則	86

留学生担当者のための「Q」&「A」 89

あとがき 94

参考・引用文献 98